心の豊かさと命の尊さ

新潟県・上越市・十日町市

おかげさまで15周年

越後田舎体験

汗を流して米づくり（田植え）体験（上）、干物づくり（右）

越後田舎体験として受け入れをはじめて15年を迎えます。高いビルも、広い道路も、整備された公園もここにはありません。越後田舎体験にあるものは、ありふれた山と小さな田や畑。人々が協力し合いながら暮らす生活……。

私たちは自然と自然のつながり、自然と人とのつながり、人と人とのつながりを大切に考え、そのさまざまなつながりを暮らしや体験、人との交流の中で、肌や心で感じてもらえるような受け入れを目指しています。

私たちの地域では民泊（ホームステイ）の受け入れを行っています。民家の人と過ごして体験、交流することで何か感じるものがあるようです。受け入れに協力いただく多くはお年寄りです。でもとても元気です。「何かを伝えたい」そう考えて受け入れを行っています。エリア全体で400軒以上の民家の協力を得て、行っています。受け入れのピークは5月や7月中旬ですが、地域のローテーションを行い、心に余裕が生まれるよう、事業に取り組んでいる姿がうかがえます。

雪国の春は特にうれしいものです。いっせいに芽吹く野や山の色、香り、音、味などで感じることができます。

私たちはこれからも人と人をつなぐ「越後田舎体験」を目指していきます。

おすすめプログラム

農村生活体験（民泊）

各民家での暮らしを体験し、人への思いやり、生きることの大切さを学びます

民泊（ホームステイ）

協力戸数　400戸×3・5人＝1400人

米作り

汗を流して米づくりを体験し、自分と人の関係や思いやる心を育てます

漁業体験

地引網・魚のさばき、干ものづくり、乗船

自然体験

自然の中で美しいもの、優しいもの、厳しいものなどを興味深く観察します

食体験

地元の素材を利用した田舎料理づくりで、食の大切さを学びます

雪国体験

雪を楽しむことも体験の一つです

地域芸能・文化体験

地域に伝わる芸能や生活文化を体験します

普通の田舎の風景・暮らしの中で、忘れがちな自然への配慮、人への思いやり、生きることの大切さを短い時間の中で伝えていきます。各地域では受け入れのための研修会や反省会、あるいは視察や学校訪問なども実施し、地域の連携を図りながら、自ら楽しんでこの楽しみの一つとして受け入れて頂けるように工夫しています。

地域に伝わる太鼓体験

春山トレッキング（5月）

越後田舎体験の特徴

①日本海の長い海岸線と、米どころ新潟の広い平野、そして棚田やブナ林がある日本の原風景が残る中山間部を持つ越後田舎体験のエリアは、自然・環境・歴史民俗学習の適地です。

②あらゆる体験プログラムは土地の人がインストラクターとしてかかわります。

③企画コーディネート（手配、連絡、調整、精算）は協議会事務局で承ります。

④広域で仲間が連携、協力して受け入れを行います。

越後田舎体験推進協議会

〒942-0411　新潟県上越市安塚区安塚722-3
雪だるま財団内
TEL 025-592-3988　FAX 025-592-3324
E-mail:taiken@yukidaruma.or.jp
URL http://www.echigo-inakataiken.jp/

通常営業時間　8：30～17：30（月～金、祭日・年末年始等休み）＊時間外でも電話してみてください

長野県・南信州

人の心温かく、瞳輝く時

感動体験南信州

家族の一員になる民泊

5月に咲き誇る梨の花

南信州は中央・南両アルプスの間に天竜川が流れる巨大な谷であり、そこに住む人々の気質は大変穏やかです。当地域では1996年から体験教育旅行を受け入れ、2001年に公社を設立し、現在年間110を超える学生団体を受け入れております。体験プログラムは自然、環境、農業、味覚、伝統工芸、アウトドアスポーツなど多くの分野にわたり、種目数は165種目を数えております。

本物の体験は心をつなぐ一生の思い出

基本的な理念は、地域に暮らす人々の生業やありのままの暮らしの中に共にし、その交流を通して互いに感動し、高まり、そして人間関係の構築の好機となるものが本物の体験であると考えています。

中でも農家民泊は年々受け入れ数も増え続けており、「帰ってきたら朝ごはんを食べるようになった」「野菜を食べるようになった」「息子が久しぶりにいろいろなことを話してくれた」などと保護者の方々からの御礼の言葉も数多く届いております。半日、1日、1泊と一つ一つのプログラムがゆったりとしたペースで展開され、しっかり交流することにこうしたエピソードが生まれる背景があります。

また、生徒たちを受け入れる農家の側にとってもそうした生徒たちの一生懸命交流しよう、体験しようという姿勢やちょっとした言葉がけなどに感動することが多く、それが受け入れを支える受け入れ農家は南信州14市町村で400軒を超えており、11年度は年間64校9千人を超える生徒たちを受け入れました。一般家庭に泊まることは、互いに気遣う心が生まれ、現在の社会に求められる人間関係構築能力を高めるには絶好のプログラムです。

今最も多い組み合わせは1日目から2日目の午前にかけて農家民泊&農家体験、2日目の午後にアウトドアスポーツ体験を行い温泉旅館での宿泊、3日目は味覚体験や伝統工芸体験からの選択という形です。南信州の人と自然と文化を目一杯体験できる組み合わせです。

教育旅行の受け入れにあたって

現在この事業に協力いただいている方々は全体で千人を超えており、数多くの学校団体が同時に訪れても受け入れ先が1カ所に集中することはなく、いつも新鮮な気持ちで訪れる人々を迎えております。受け入れを始めて15年を経た経験と実績を生かし、安全で教育効果の高い受け入れをすべく励んでおります。

教育、あるいは社会に貢献するという誇りと責任を感じ、それを大いなる喜びと捉え、これからも受け入れを続けていきたいと考えております。

信州そば打ち体験

信州名物五平餅作り

田植え体験

株式会社南信州観光公社

〒395-0512　長野県飯田市育良町1-2-1
りんごの里内
TEL 0265-28-1747　FAX 0265-28-1748
URL http://www.mstb.jp/

福井県・若狭美浜

人生の先輩に学ぶ旅

農山漁村には人間を育てる力がある

心のふれあう民泊家庭でありのままを体験する

福井県美浜町には、日本の故郷の風景があります。山には木々が生い茂り、清らかな川や湖には魚棲み、町の名の通り日本海に面した美しい浜が続きます。人々は自然の恵みをいただき、それを生業としてきました。

「若狭美浜はあとふる体験」は、このような資源を生かし、「漁業」「農林業」「自然・アウトドア」「味覚」「工芸・歴史文化」とバリエーションに富んだプログラムを整えています。

現代では、他人とどう接し、どのように人間関係を構築すべきか分からない人が増えているようです。しかし、採用時に企業が重視する要素として、9年連続で1位という結果が出ているように、ますますコミュニケーション能力が求められています。

「若狭美浜はあとふる体験」では、体験することだけが目的ではなく、その体験を通した「人」との交流に価値があると考えており、その交流から生まれる「心の高まり」を大事にしています。

携帯電話やインターネットの普及により、現代では、他人と対話する場が減っています。しかも、核家族化が進み、異世代と接する機会が少なく、限られた人間関係の中であり、年々増加しています（13年3月現在）。

おすすめプログラム

民泊体験

ありのままの生活をともにすることで、「田舎の温かさや人とのつながりの大切さ」を伝えたいと08年度から受け入れを始めた民泊体験は、約1000軒の簡易宿所登録があります。民泊体験を通して、生きている生徒は、体験前は非常に不安を感じるようです。

しかし、初めて訪れる土地で、初めて会う人とコミュニケーションを図るには相手を気遣い、歩み寄る努力が必要となります。民泊体験を通して、能力を育むことができる人気プログラムです。漕ぎ手4人とコックス（舵とり）1人が艇に乗り込み、湖を漕ぎ進みます。「一艇ありて一人なし」という言葉のように、1人が頑張っても速く進まず、全員の呼吸が一つになった時、初めて湖面を滑るように進むことができます。それぞれが自分の役割を理解し、その役割を全うしようと努めることで、信頼関係が生まれ、体験を終えた後には仲間と一つになった喜びを感じられること間違いありません。

心を一つにボート体験

伝統漁法の大敷網体験

ボート体験

ボートの聖地、美浜町のボート体験はチームワークの大切さを肌で感じ、人間関係を構築する心が通い合う喜びや他人に心を開くことで得られる心の平和を感じてもらえたらと思います。

大敷網体験・食体験

大敷網は、若狭湾の豊かな海に敷設した長さ1350㍍、幅100㍍の大きな網を、漁師が船で取り囲み、引き上げていく若狭地方の伝統漁法です。漁師と一緒に網を巻き上げることで、漁業の大変さや喜びを学ぶことができるキャリア体験の機会となります。食育体験では、先程までピチピチと飛び跳ねていた活きのよい魚を自分の手でさばくことで、まさにその命を自分がいただいているという実感が生まれます。

学校という日常を離れ、初めて出会う人と交流を深め、初めて行う体験を通して、新たな自分を発見、また、学校生活を共にする仲間と同じ達成感を味わうことができます。一生に1度の修学旅行。「ほんもの」の体験交流を通して、心の平和、人間関係の構築能力、豊かな人間性を育んでいただきたいと願っています。

若狭美浜はあとふる体験推進協議会
コーディネート
NPO法人はあとふる美浜ネットワーク

〒919-1122　福井県三方郡美浜町松原35-16-18
TEL 0770-32-2222　FAX 0770-32-2239
E-mail:wakasamihama@kl.mmnet-ai.ne.jp
URL http://heartful-mihama.com/

滋賀県・近江日野

三方よし！近江日野田舎体験

修学旅行コースの選択肢が広がる

近江日野田舎体験で心温まる、心高まる交流を

よもぎ餅作り（距離が交流を深める）

私たちの町、近江の国（滋賀県）日野町は、県の南東部鈴鹿山系の西麓に位置します。人口は2万3千人、京野菜の一つ日野菜の原産地として、また、戦国武将・蒲生氏郷公の出生地としても知られ、江戸時代には行商で富を成した近江日野商人を輩出した町です。近江商人は「売り手よし　買手よし　世間よし」の「三方(さんぽう)よし」の精神で商いに精励し、常に社会への還元を忘れませんでした。

三方よし！近江日野田舎体験は、この三方よしの精神に習い、「迎えるもの（売り手）に自信と誇りの回復を！　地域（世間）に活力を！　訪れる人々（買い手）に心からの感動を！」を合言葉に、近江日野田舎体験（民泊）にかかわる人々に農村生活体験を通した心温まる交流をお届けします。

おすすめプログラム

近江日野田舎体験のおすすめプログラムは、農村生活体験（民泊）と家業おまかせプランによる「食育と心の平和教育プログラム」です。

民泊家庭軒数は150軒、1軒4人を基本に少人数で受け入れ、連泊も可能です。家業おまかせプランは、受け入れ家庭の家業、生業、農村の営みをそのまま体験し、受け入れ家庭と常に行動を共にすることで、心の交流が深まります。受け入れ家庭ごとにさまざまな体験ツールを用意し組み合わせることから、1軒ずつ内容もスケジュールも異なります。さらに、食生産と調理、食することから「食」を学び、受け入れ家庭や生徒たち相互の交流を通して、心の豊かさ、心の平和の大切さを伝えたいと考えています。

感動の離村式

田んぼの補植作業

かんぴょうの皮むき

古都の歴史文化学習と体験交流の両立プラン

日野町は、京都市から1時間、奈良市・名古屋市からも1時間半でお越しいただけます。また、名神高速道路、新名神高速道路の主要インターからも町の中心部まで約30分と関西圏、中部圏との交通アクセスは大変便利です。

立地の利便性から京都、奈良での歴史文化学習と、生徒個々の生きる力を育むための近江日野田舎体験による農村生活体験との組み合わせは、数多くの学校に支持されています。

今年で教育旅行の受け入れを始めて5年目となります。安全安心、そして、教育効果の高い受け入れを協議会と地域一丸となって取り組んでいます。

近江日野に住む者がこの地に生きる理由、誇りを語り、伝え、訪れる側、迎える側それぞれの人々が、自分と自分を取り巻く人々を認め、自分が存在することの意義、価値に気付き、明日の生きる力を得ることができる、人と心が高まる旅「三方よし！近江日野田舎体験」へのお越しをお待ちしています。

三方よし！近江日野田舎体験推進協議会
担当：福本修一・加納治夫・中森雅之

〒529-1698　滋賀県蒲生郡日野町河原1-1
日野町商工観光課内
TEL 0748-52-6562　FAX 0748-52-2043
E-mail:kankou@town.shiga-hino.lg.jp
URL http://www.omi-hino.jp/